

滋病防第37号  
平成17年(2005年)4月19日

各関係機関の長 様

滋賀県病害虫防除所長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)の送付について  
このことについて下記のとおり発表したの送付します。

---

平成17年度 病害虫発生予察特殊報 第1号

平成17年(2005年)4月19日  
滋 賀 県

1. 病害虫名: アワダチソウグンバイ *Corythucha marmorata* (Uhler)
2. 作物名 キク(キク科)、サツマイモ(ヒルガオ科)
3. 発生経過
  - (1) 平成16年7月、病害虫防除所が巡回調査中に、ほ場周辺部のセイタカアワダチソウの下葉に群棲するグンバウムシを発見し、同月13日に野洲市(旧;野洲郡中主町)のキク(露地)に寄生するグンバウムシを採集した。
  - (2) 7月21日、栗東市のサツマイモとキク科雑草に寄生するグンバウムシが病害虫防除所に持ち込まれた。
  - (3) 採集及び持ち込まれたグンバウムシは、国立科学博物館の友国雅章博士によって、アワダチソウグンバイと同定された。
4. 形態  
成虫の体長は約3mmで、前翅や前胸背の翼状部ならびに帽状部には不定形の褐色斑があり、周縁部には顕著な棘が列生する。これらの形態的特徴により、日本産の他のグンバウムシから容易に区別できる。
5. 生態  
北米からの侵入種であり、平成12年8月に兵庫県西宮市で生息が確認された。  
大阪府の調査によると、露地栽培キクでのアワダチソウグンバイの発生は6~8月であり、成虫の発生ピークは7月下旬と8月下旬、幼虫の発生ピークは8月上旬と下旬であり、またキク科雑草での越冬も確認されている。成幼虫は葉裏に生息することが多く、幼虫は主として集団で生息する。
6. 被害の特徴  
吸汁による加害であり、葉表にはかすり状の脱色斑点が生じ、葉裏には黒い粘液状の排泄物が見られる。被害が甚だしい時には葉全体が黄~白化し、枯死に至る場合もある。
7. 寄主作物  
キク、ヒマワリ等のキク科植物、サツマイモ。
8. 防除対策
  - (1) 現在のところ、キクなどの寄主作物での本種に対する登録農薬はない。ほ場周辺での発生源となるキク科雑草(セイタカアワダチソウ、ブタクサ等)の除草を行う。
  - (2) 大阪府による各種薬剤の殺虫効果試験では、MEP乳剤、DDVP50乳剤、アセタミプリド水溶剤、アセフェート水和剤、アクリナトリン水和剤、イミダクロプリドフロアブ

ル、クロルフェナピルフロアブル、シペルメトリン乳剤、チオジカルブフロアブル、ニテンピラム水溶剤の効果は高く、エマメクチン安息香酸塩乳剤、スピノサド顆粒水和剤、トルフェンピラド乳剤、ピリダベンフロアブル、フェンプロパトリン乳剤、ミルベメクチン乳剤の効果は低いとされている。これらの農薬は、非食用作物には使用できるが、食用作物への使用は禁止されている。



写真．左：アワダチソウゲンバイ（成虫）の標本写真、中央：幼虫の生態写真、右：サツマイモの被害葉（葉裏）

## 滋賀県病害虫情報 N E T

### インターネットで見る病害虫情報

病害虫発生状況・今後の予報と解説などが  
いつでもインターネットでご覧になれます

<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaiichu/>

滋賀県病害虫防除所

〒 5 2 1 - 1 3 0 1

滋賀県蒲生郡安土町大中 5 1 6

TEL 0 7 4 8 - 4 6 - 6 1 6 0

0 7 4 8 - 4 6 - 4 9 2 6

FAX 0 7 4 8 - 4 6 - 5 5 5 9